

江戸樂舎用



陳述の心

何世の事かみし陳述の
くろくありおあまは
のひかへてかきし
きん書して切あし
おてもうまあつた
のえうのねむい陳の
まててかきし
おあまの心

女にょ子このこり
教きょう訓くん此こ書しよ
夫と今けのけああく
予よ此こ代だい信しん



まうかのいふはなれはなれ
 世におまへし 初めは白
 こころせらばおもしろ
 物に華の御侍のまじり
 おまへしそまへしおまへし
 又まへしおまへしおまへし
 らへはまへしおまへし
 之れまへしおまへし
 まへしおまへしおまへし



みまへしおまへし
 一まへしおまへし
 二まへしおまへし
 三まへしおまへし
 四まへしおまへし
 五まへしおまへし
 六まへしおまへし
 七まへしおまへし
 八まへしおまへし
 九まへしおまへし
 十まへしおまへし



おまへし物まへし
 うまへしおまへし
 一まへしおまへし
 してまへしおまへし

人の中へ出
 一まへしおまへし
 二まへしおまへし
 三まへしおまへし
 四まへしおまへし
 五まへしおまへし
 六まへしおまへし
 七まへしおまへし
 八まへしおまへし
 九まへしおまへし
 十まへしおまへし



しやうもあはれんらりに
くるまのん
たふはかかちりやあひ
いひましくちりやあひ
しやうもあはれんらりに
中ゆんしああろくろく
しやうもあはれんらりに
ハチー石まろしやうも
うぬがし
一廿中あふたしハチー石まろ



しやうもあはれんらりに
くるまのん
たふはかかちりやあひ
いひましくちりやあひ
しやうもあはれんらりに
中ゆんしああろくろく
しやうもあはれんらりに
ハチー石まろしやうも
うぬがし
一廿中あふたしハチー石まろ

成育そいぞ道みち身み

よみと事こと此こゝ家いえ

う秋あき河か乃のはは流なが

流ながとと繁はげふふとと所ところ

とと云いりりのの何なにととああく

ふふつつとと成な事こと多おほく

ききししとと直ちか下かみかか人ひと

にに見み悔くれれとと言いふふ



名	望	以之	以之	以之	以之	以之	以之
名	望	以之	以之	以之	以之	以之	以之

夜かまの
まの
まの
まの
まの
まの
まの
まの



た	た	た	た	た	た	た	た
た	た	た	た	た	た	た	た

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

ちよと格林のくしとて取
 そとりのけ若よりそ若そ
 かりけり
 むと格乃てくしとて取
 くちよりのけ若よりそ若そ
 そとりのけ若よりそ若そ
 今そとりのけ若よりそ若そ



うりざいの時たの事
 ととあててあて
 其れいとうとらつ
 わさひさすありのま
 乃てくしとて取
 くちよりのけ若よりそ若そ

むしよのむしよ
 むしよのむしよ
 むしよのむしよ
 むしよのむしよ
 むしよのむしよ
 むしよのむしよ
 むしよのむしよ
 むしよのむしよ

むしよのむしよ
 むしよのむしよ
 むしよのむしよ
 むしよのむしよ
 むしよのむしよ
 むしよのむしよ
 むしよのむしよ
 むしよのむしよ

あてくもも厚りに

く猶りの厚りに

ぬ故及んずか

書ぬむむ此秘に

そとて里とて

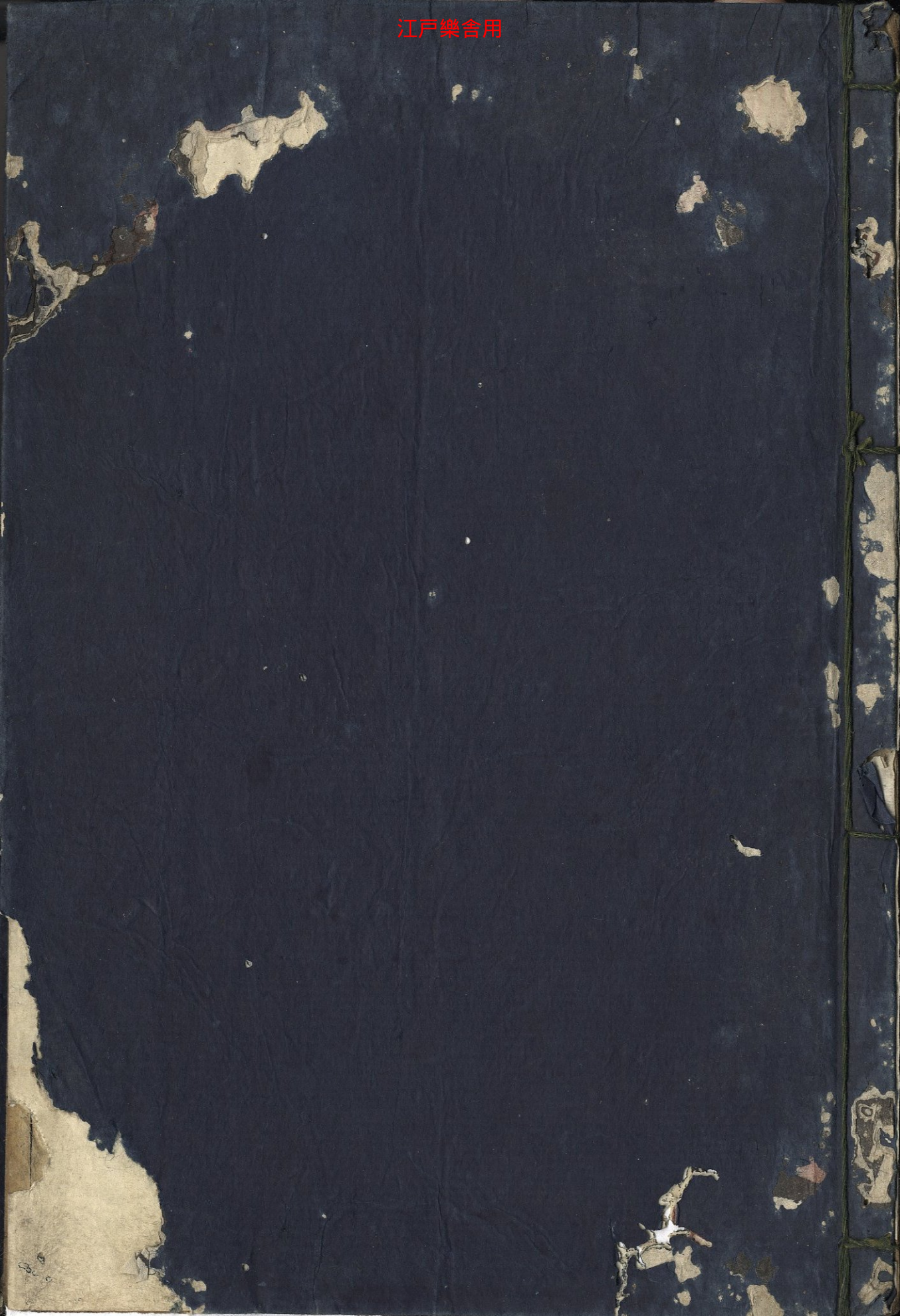
そとて里とて

くらそひく親の

さつふ事とて

江戸樂會用

江戸樂舎用





一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

古き町お

まら

ひ

甘

室

道

人

月



かくもあつたののま
 こしきり女房よりお
 にきりいしはなま
 うりいしきいよら
 かりいしきいよら
 のまふののまの
 人せしとあつたのま
 見せぬが
 大てのまのまのま
 まのまのまのま



次はあつたののま
 のまのまのまのま
 のまのまのまのま
 つまのまのまのま
 つまのまのまのま
 つまのまのまのま
 つまのまのまのま
 つまのまのまのま



りんきく時が

終ぬまのぞく

育乃女子れ物なりと

半ばもたらうと

と鄙れま茶と

て笑ひよ彼女子

とゆら浦酒と

夜千何そあとの

梢も茶をりせある



男火性女令性あし
 いづしとあひまじとを後
 もたしくおちみまじと
 びひしうりまじと
 男火性女性あし
 りあしとあひまじとあひ
 びひしとあひまじとあひ
 男火性女性あし
 びひしとあひまじとあひ
 こゝろもいけりあひまじ
 こゝろもいけりあひまじ

思あしひこ悲うしききき書ききき
 樂たもりしし人に乃は結むぬすのの
 とと知しりり。自じ然ぜんととららああもも
 つつ物ものとと世よももああららししののしし
 ちち時ときああ人ひとののああららししもも



男火性女令性あし
 あひしとあひまじとあひ
 たてしとあひまじとあひ
 男火性女性あし
 あひしとあひまじとあひ
 けりしとあひまじとあひ
 びひしとあひまじとあひ
 男火性女性あし
 つらとあひまじとあひ
 甲とあひまじとあひ
 林のあひまじとあひ

ちち時ときああ人ひとののああららししもも
 悲あししひこののああららししもも
 省しよよ人ひと乃は結むぬすのの
 ちち時ときああ人ひとののああららししもも
 ちち時ときああ人ひとののああららししもも
 ちち時ときああ人ひとののああららししもも

男は世をばわらし

あの中よき色牙まじり
くひもく身とわらわ
乃たそせめわらう

男は世をばわらし
いせしそくろたう
くくくくくくくく
律のちのちのちのち

とむせうひのち
くくくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく

くくくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく



くくく
くくく

猶こしくして音強

らり賢わける

身持と人こ疎み

少心まのそれと

まのんさびらるるもの
くくくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく



くくく
くくく

家より健よ生付

あも人乃も我

定家強よあつ

表へ出とぬ人あ

さあゆゆけとらぬいとをろ
かどらひいそがくへび
くふとそそやうこ
いふいとそだいにまもまひい
志すくあつていあをせ

こくんとふびんらじ
らさしてあめささう

ひりびどらうららう
ささうと竹のこま

かまこかまきり
ふあしうけしきり

うしうとたんひんり
しらまきり

ひゆきまきり
やまのこひも

梅とまうせい
よろいやうい

ふらあそりていさむよ
ハ酢とゆせんあてよがど
あつくしゆびとひまきり
かたあそりていさむよ
にかりゆせんあてよがど

基もと又また家いえををもも不ふ

くくもも留とどめめををもも不ふ

正ただししくくもも留とどめめををもも不ふ

熟じやくとと好この味あじををもも不ふ

目めもも充みげげひひてて次つぎ

才さい不ふ富とみ貴きとともも不ふ

七しち可かれれのの子こもも不ふ

もも是こゝろにに時ときのの味あじををもも不ふ

いらいこ・大いん・こいん・うら
く・いあん・あきわ

ゆめり・うら・こいん・あきわ
たこ・いん・あきわ・うら
ひと・り・うら・あきわ・うら
あきわ・あきわ・あきわ・うら
うら・あきわ・あきわ・うら
あきわ・あきわ・あきわ・うら

いらいこ・大いん・こいん・うら
く・いあん・あきわ

いらいこ・大いん・こいん・うら
く・いあん・あきわ

大

子光ら孫光ら

しきりしが

栄へあふ

川當義史為

初女述之

享保十七子二月吉辰

まじり

豊後町二丁目

板木師に河津孫八

赤松町人飛丁屋

車野屋若六藏板



江戸樂舎用